

大学院体験記

平成 21 年卒の網岡道孝と申します。私は日本医科大学を卒業後、県立広島病院で初期研修を終え循環器内科へ入局しました。土谷総合病院、広島赤十字・原爆病院でレジデントとして勤務しました後に大学院へ進学いたしました。心不全とりわけ薬剤性心筋障害に興味を持っておりましたが入学時には「大学院でこれがやりたい」という確固たるものはありませんでした。1 年目のローテーションでそれまで嫌厭しがちであった不整脈に興味を持ち、2 年目以降は不整脈診療を中心に臨床研究を行う道を選びました。

大学といえば堅苦しくて居心地の悪いところなのではないかと心配していましたが、実際にはそんなことなく学びに溢れた他にはない素晴らしい環境でした。それまでの中心であった臨床業務とは別に、データ収集や統計解析、はたまた研究とはどういうものなのかについて多くの先生方の取り組みを見ながら間近で学ぶことができました。とりわけ中野先生にはカテーテルアブレーションの基礎的手技から遺伝子研究に至るまで本当に多くのことをご教授頂きました。先生から学んだことは何も勉強だけではありません。医師としてまた一社会人として大切なことを沢山学びました。本当に感謝の気持ちで一杯です。

大学院在籍期間を通して、レジデント時代形にできずにいた薬剤性心筋障害に関するデータ、また心房細動に関連する遺伝子と臨床データについて合わせて 3 本の英語論文を執筆することができました。これも一重にご指導頂きました先生方のおかげです。またシンポジウムや海外での学会発表や多くの仲間と楽しい時間を共に過ごすことができたのは大きな財産です。我々の仕事は決して一人で成し遂げることはできません。チーム一丸となって取り組むことの大切さを改めて実感しました。

大学院卒業後は市中病院にて臨床診療と臨床データを元に論文作成に励む日々へ戻りました。大学院でご指導頂いた経験を糧にアブレーション治療に勤しんでおります。これまでにできなかった手技ができるようになり成長を感じる毎日です。

最後になりますが、木原先生、中野先生をはじめとした循環器内科学の先生方へこの場を借りて厚く御礼申し上げます。広島の循環器診療に少しでも貢献できるよう日々精進して参りたいと思います。



(アブレーション研究会にて)



(山本先生を囲んで同期と)